

居敷くと厳重に捕へ武器を廢棄せ居りたる
所に頼久公の運のききまゝふりやけ事西楯の内
より乞けり者有りて山形へ内通せしか義光少将
叔りて時をうけんと大勢さ一向し西屋敷を
とりまきて責められハ西屋敷の者共百餘人討れ
お事も百八拾余人計れにたる大炊少輔も兵部も
乞ねたけくおもひとしむ勢といひ要害をもつかされ
ハ後時より責められ無念といふも何ありあり山寺の
守郎寺と云光坊の西僧一味の由山形へ少へれは
急ぎ彼の僧共召捕るべしとの事なれハ西僧取物

も取あへ行方なれど落行多山口村河原子村西屋
敷の一戦よりいハ天正十二年四月十日の事ありは事
大石田より使僧を以て頼久公へ中上なれハ君少し
召れ此うへ力ありし頼久の運命尽し所ありと
宣ひけり使僧も大石田より上人も袂をたまり
玉ひける

叔内ハ義光公信られたる佛向寺代々成生なり此
菩提所なれハ戦傷の傷き今更に苦しかり
知行什物共上人方へ返し居しそ悉く申返あり
其後山寺學頭より日頃所望ある五巾の縁起の事